

選挙の記録

令和 3 年 7 月 4 日 執行 東京都議会議員選挙

令和 3 年 10 月 31 日 執行

衆議院議員選挙
最高裁判所裁判官国民審査



江東区

東京都議会議員選挙

<公営ポスター掲示場>



<投票所風景>第49投票所 東砂スポーツセンター



<開票所風景>ホテルイースト21



衆議院議員選挙

＜公営ボスター掲示場＞



＜投票所風景＞第16投票所 江東区役所



＜開票所風景＞スポーツ会館



はしがき

これは、令和3年に執行された東京都議会議員選挙（以下「都議選」と略す）及び衆議院議員選挙・最高裁判所裁判官国民審査（以下「衆院選」と略す）についての記録です。

都議選は6月25日告示、7月4日投・開票で行われ、国内で初めて新型コロナウイルス感染症患者が確認されてから1年半が経過し、「まん延防止等重点措置」が適用される中での選挙となりました。

新型コロナウイルス感染症患者が増加する中、投票機会を確保するため、6月23日に「特定患者等の郵便等を用いて行う投票方法の特例に関する法律」が施行されましたが、本区では6人の投票にとどまり、周知期間の短さや、手続きの煩雑さが課題となりました。

都議選では、新型コロナウイルス感染症や東京オリンピック・パラリンピックへの対応が主な争点となりました。本区における投票率は43.89%と、前回の都議選と比べ10.67ポイント減でしたが、東京都全体の投票率（42.39%）や23区平均の投票率（42.60%）は上回りました。

期日前投票者数は合計54,077人となり、投票者全体の約3割の方が期日前投票を利用したことになります。これは、有権者数及び投票者数の増加が著しい豊洲地区において、期日前投票所を前倒して開設したことや、新型コロナウイルス感染症対策として、有権者の分散投票への意識が高かったことと捉えております。

衆院選は10月19日公示、31日投・開票で行われました。10月4日に首相による解散表明、10月14日に衆議院の解散が閣議決定され、同日の本会議において解散されました。衆議院議員の任期満了を超えての衆院選は現行憲法のもとでは初めてで、解散から投・開票までは17日間で戦後最短となり、準備期間が極めて短い選挙となりました。

衆院選では、新型コロナウイルス感染症対策や経済の立て直しなどが争点となったことや、東京15区（江東区）は東京都の小選挙区では一番多い立候補者の7名となり注目されたことから、本区における小選挙区の投票率は58.73%となりました。前回の衆院選と比べ3.14ポイント増で、東京都全体の投票率（57.21%）や23区平均の投票率（56.79%）を上回りました。

昨年に引き続き、感染症対策を講じての投・開票となりましたが、無事に選挙を執行することができたことは、ひとえに関係各位のご理解とご協力の賜物であります。

ここに心より感謝を申し上げます。

令和4年3月

江東区選挙管理委員会